

第7回Cosmic Dust研究会 (The 7th meeting on Cosmic Dust)

開催期間：2014年8月4日～8日

開催場所：大阪産業大学 梅田サテライトキャンパス

主催：Cosmic Dust 組織委員会

支援：大阪産業大学、宇宙科学振興会、日本学術振興会

LOC代表：大阪産業大学教養部 准教授 茅原弘毅

宇宙塵 (Cosmic Dust)に関する本国際研究会は、その第1回目を2006年にシンガポールで開催された第3回AOGS annual meeting (アジア・オセアニア地球惑星科学学会年会) の1セッションとしてスタートし、その後も引き続きAOGSセッションとして第4回まで韓国 (2008)、インド (2010)、台湾 (2011) で開催してきました。2012年よりAOGSから独立し、神戸大学惑星科学研究センター (CPS) での開催を経て、第7回となる今回は大阪産業大学梅田サテライトキャンパスにおいて2014年8月4日から8日の5日間にわたって開催いたしました。参加者は、日本国内をはじめとして、欧米やアジア13カ国からの研究者を50名にしぼり、12件の招待講演を含む37件の口頭講演と14件のポスター講演により、活発な討論が繰り広げられました。

固体微粒子である宇宙塵 (Cosmic Dust) は、宇宙空間のあらゆる場所に普遍的に存在し、様々な天体に付随しています。宇宙塵は単に、地球などの固体天体や生命の源の原材料というばかりではなく、銀河や星形成などの天体物理現象のエネルギー収支を担っており、また、極めて希薄な宇宙空間においては、その表面で原子やイオン同士が出会い、分子を形成する場所 (触媒) を提供するという重要な役割も担っています。このように宇宙物理/化学的に多くの側面を持っている宇宙塵ですが、それゆえ個々の宇宙塵研究者の専門分野は多岐にわたり、研究手法も観測、理論、実験、分析など様々です。分野が異なる宇宙塵研究者の間では、同じく宇宙塵とは言いながら、頭の中で想定しているモノが異なる場合が多いのもまた事実です。講演は、はやぶさ試料のキュレーションなど、太陽系内小天体 (彗星、小惑星など) に関する話題から、デブリ円盤、原始惑星系円盤、星形成領域、星間物質、銀河に至るまで、非常に広い階層の天体にわたっており、ALMA、あかり、すばる、Herschel など最先端の機器を用いた観測結果や、最新のシミュレーション計算の結果などが報告されました。これらの極めて広い範囲からの話題提供により、宇宙塵研究の全体を俯瞰し、バックグラウンドが異なる分野間の研究者同士のコミュニケーションを促進して、お互いの専門知識を共有する場を提供するという、本研究会の目的のひとつは十分に達成されたのではないかと思います。

会期中、参加者全員で開催地から程近い堂島でパンケットを行い、またエクスカージョンとして、京都府宇治市の平等院を訪問しました。宇治では、英語を話す日本人ボランティアガイドにより仏教をはじめとする日本文化の紹介がなされ、緑茶や和菓子などを楽しみ、参加者同士の親睦を深めました。これらのイベントによっても、異分野間の研究者同士の共同研究の促進につながることを期待しています。

最後に、今回の国際研究会を開催するにあたって、宇宙科学振興会には厚いご支援をいただき、特にインドなど発展途上国からの参加者や、大学院生、若手ポスドク研究員などに参加経費の援助を行う事ができました。おかげさまで、多方面からの参加者が集まり、結果として研究会が大変有意義なものとなりました。深く御礼申し上げます。



参加者集合写真



論文発表風景